

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196000046		
法人名	株式会社セイルコーポレーション		
事業所名	グループホームさくらえん (1階 桃色ユニット)		
所在地	三笠市幌内新栄町352番地		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0196000046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成31年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人に合った、安心して住みやすい環境を提供します。併設するデイサービスに行き体操などを行うことができます。重度化した場合なども医療と連携しながら、ご家族や本人の意見を尊重し看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は当初は炭鉱病院であったが、幾度か運営法人が代わり、平成28年10月に当法人が事業譲渡を受けて開設した。三笠市幌内地区に位置し周囲は山々に囲まれ、前庭には桜並木があり季節の移ろいを感じる。鉄筋構造耐火2階建て2ユニットで、ディサービスが併設されている。避難訓練やクリスマス会などを合同で行ったり、利用者がディサービスに出かけるなどの交流があり、利用者同士趣味や行事を通じて馴染みの関係を作ることができ、職員も事例を共有しながらケアの質の向上に努めている。町内会に加入し、新年会や地域の清掃、地域の盆踊りに参加したり事業所の秋祭りには地域住民がボランティアで参加したり、保育所園児が来訪して踊りや歌を披露するなど地域住民と交流している。職員は看取りの経験も豊富で、重度化した場合は、医師の指導の下、看取りに関する指針に基づき、利用者・家族の希望に添うよう支援している。職員は質の高いケアを目指して研修や、市内の他のグループホームと交流を密にしてケア技術の向上に取り組んでいる。利用者は家庭的な雰囲気の中で思い思いにその人らしい生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各階の壁に利用者、ご家族にも見ていただけるよう掲示している。理念を念頭に置きケアにつなげている。	事業所理念「入居者が家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活を送れるよう自尊心を大切に支援する」を各ユニットに掲示し、毎月開催する勉強会で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加、当施設の秋祭りの手伝いを要請、参加していただいている。	幌内北区の町内会に加入し、町内清掃や新年会に参加している。市のスポーツ大会に参加したり、保育所園児が来訪して踊りや歌を披露し、事業所の秋祭りには地域住民による見守り等の協力がある。4ヶ月に1回認知症カフェを開いて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを4か月に一度行い、地域の方に認知症への理解を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、活動報告、事故報告、今後の活動などを報告している。他グループホーム職員やご家族、町内会の方にも参加していただき意見をいただいている。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、地域住民、家族、利用者、他グループホーム職員等が参加し、活動報告、事故報告、行事等を話し合い、報告以外にも様々な意見が出されサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長、副施設長が必要に応じ電話連絡や足を運び連携を取るようになっている。	行政とは認定更新時や相談、問い合わせなどで連絡を密にしている。運営推進会議や、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座を開催して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、拘束によって生じるリスクなどの理解を深めている。	身体拘束廃止マニュアルに基づき内部研修を行って、どのようなことが身体拘束にあたるか全職員が理解を深め、声掛けなどにも気を付けている。安全の為家族とも話し合い、居室で数人がセンサーを使用している。防犯上夜間のみ玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、虐待防止に努めている。今後も言葉使いの施設内研修予定あり。		

グループホームさくらえん (1階 桃色ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員しか学べておらず今後施設内研修を行う必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき納得していただいたうえで入居していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、利用者の方は、直接スタッフ、施設長、副施設長、管理者へ話をされている。意見箱の設置あるが利用されている方はいない。	日常の様子や会話から利用者の想いを把握している。家族とは来訪時や運営推進会議参加時、電話で現状の報告を行い、希望や意見、要望を聞いている	家族の意見、要望などを積極的に引き出すためには、事業所独自の広報誌などを作成して、利用者の日常生活の様子をより詳しく家族に知らせて、家族の意見等に反映させる事を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り、月一回全体ミーティングを行い、意見交換を行っている。	朝夕の申し送りや日々の会話でも話し易い雰囲気である。月1回全体会議で話し合い、運営に反映させている。職員の育児や家族の状況に合わせて希望を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の意見や、提案を聞き働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や、外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や、他事業者の開催するワーキンググループなどに参加し交流を図るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話の中で、要望など伺い、様子観察をして、安心して生活ができるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前調査、契約時にはご家族から話を伺い、生活歴、アレルギー、し好品や趣味などを聞き、ケアにいかしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見ながら、ご家族と話し合い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員もみな家族と説明し、家族同様の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状の報告をしながら、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人に会いに来ていただいたり、手紙、年賀状のやり取りをしていただいている。面会時はゆっくり過ごしていただいている。	家族と一緒に馴染みの美容院や買物に出かけた後、友人・知人が来訪した時は、居間や居室でゆっくり過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮、個々の性格などを配慮しながら、お互いに支えあえる関係性を作れるように支援に努めている。		

グループホームさくらえん (1階 桃色ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談などあればフォローするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族とも話し合いながら、本人はどうしたいのかということを最優先している。	日常の会話や日々の関わり、家族との話し合いの中で希望や意向の把握に努め、職員間で共有して、意向や希望に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や、来訪時にご家族から話を聞き、情報収集をこまめにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分でできることは見守りながら行っていただき、その時の状況に合わせたケアを行うようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族から意向を聞き、何が重要かを職員間で話し合い作成、状況に変化があればその都度見直しをしている。	利用者と家族の意向を反映させ、全体会議で話し合い、6ヶ月毎に介護計画を作成して家族の確認印を得ている。状況に変化がある時は、その都度介護計画を見直し、家族にも細かく説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア、気づきは個別に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と協力し、また医療機関からもアドバイスをいただきながら、その時のニーズに合わせて対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスが併設されており本人希望時デイサービスに参加が可能、デイサービスのイベントや合同イベントも開催し参加され楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	みかさホームケアクリニックと連携しており必要に応じて迅速に対応出来ている。かかりつけ医への受診も希望があれば継続して行えるようにしている。	利用者、家族の意向を優先しかかりつけ医に受診している。付き添いは家族が行い、付き添えない時は外部に委託している。結果は付き添い者から詳しく聞いている。訪問医が毎日訪れ、常勤の看護師が利用者の健康管理を行っている。	

グループホームさくらえん (1階 桃色ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化があれば、すぐに看護師に相談、助言、指示を受けることができる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を図り、継続的に病状を把握できるようにしている。入院中も面会に行き、病院関係者と情報交換を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申し込み時に重度化および終末期の意向を伺い説明し、了承いただいている。	入居時に利用者、家族に「重度化対応の指針」「看取り指針」に基づき説明し意向を確認している。重度化した場合は利用者、家族と話し合いながら医師、看護師、職員で連携し希望に添えるよう支援している。今まで7名の看取を経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の資料にて対応できる体制がある。AEDや嘔吐物処理の院内研修を実施しているが今後も研修の機会を増やし実践力を身につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施し、意識を高めている。これからも避難の方法、対応を学習していく必要がある。消防設備は業者が定期点検を行っている。	消防署指導の下、年2回夜間想定と日中を想定して避難訓練を行っている。日中の時は併設のデイサービスと合同で行っている。備蓄品(水、食料、暖房機材等)が完備されている。停電時には車から電源が確保できるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度には留意しながら関わりを持つよう意識しているができてないときは注意をする。	自尊心を大切に利用者の気持ちに配慮した対応を心掛けている。気になる言葉や、仕草に気づいた時は職員同士で注意しあえる環境を目指している。個人情報適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の思いを聞き取り、意向に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人の意向に添えるよう支援に努めているが、職員のペースで動いてしまう時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を取り入れ支援できている。二か月に一回床屋に来ていただきカットをお願いしている。		

グループホームさくらえん (1階 桃色ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成、調理は利用者の希望を取り入れながら職員で行っている。手作りおやつの日を作り利用者にも手伝いをしている。誕生日にはご本人の好きな食べ物を確認しメニューを決めている。	献立の作成と調理は、利用者の希望を聞きながら職員が行っている。利用者は能力に応じて食器を洗ったり、テーブル拭きなどを行っている。誕生日などの行事食は利用者の希望を取り入れている。皆で餃子作りをしたり、節分には豆まきなど季節の楽しみを取り入れて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回チェックしている。個々に合わせた形態や量にして対応している。刻み食、トロミの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアが必要な方は毎食後口腔ケアを行なっている。訪問歯科と連携している。イソジンでのうがいの声掛け行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し必要な方にはトイレの声掛け、誘導をしている。	排泄記録で個々の排泄パターンを把握し、態度などから適時にさりげなく声をかけて排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘などあれば医師に相談している。日常生活の中で少しでも身体を動かす機会を増やせるよう心掛けている。水分補給の促しにも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週二回を基本とし本人希望時は入浴できるよう支援している。拒否する場合は無理せず日を改めている。	週2回を基本とし、希望があればいつでも対応している。1日3~4名の支援で毎回お湯の入れ替えをしている。拒否する場合は無理をせず、日を変えたりして個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により、自由に休息できるよう支援している。リネン交換は週一回、汚染時に交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルがあり、最新のものをに入れてある。変更があった場合、記録、日誌に記入し情報を共有し、状態の変化などないか観察するよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で一緒に活動する事が多いため一人一人に合わせた支援をしていくよう努めたい。		

グループホームさくらえん (1階 桃色ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に考慮しながら買い物など外出行事を行っている。家族にも協力していただき買い物、美容室、外食などされている。	天気の良い日には散歩や、外にベンチを出して日光浴をしたり、岩見沢のバラ園や買物に出掛けたり、美唄の公園の桜を見ながらドライブに行っている。家族、知人との外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に合わせて自己管理されている。自己管理出来ない方は、施設で預かり買い物のとき自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で希望があれば電話をかけていただく。電話が来た際は話ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りを一緒に作り飾っている。行事の写真も掲示し、眺めてはその時のお話をされている方もいる。清掃は職員、週一回業者に委託している。ご自分の居室を拭き掃除、掃除機掛け、ほうきで掃き掃除されている方もいる。	居間・食堂は一体的で、明るく、清潔で、季節を彩る飾りや、行事の写真を掲示し、生活の場として温かみのある雰囲気を作っている。利用者はそれぞれの居場所で職員と一緒に折り紙をしたり、テレビをみたり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが居間しかないため一人になりたいときは居室で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を持って来ていただいている。思い出の写真、仏壇なども置かれている。	希望により備え付けベットが利用できる。利用者は使い慣れた馴染みの物を持ち込み、自分の家として生活感が持てるように家具や仏壇などが置かれ、壁には家族の写真などを飾って、居心地よく安全に過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所手すりの設置、夜間歩行しやすいよう明かりの調整を行っている。自室やトイレが分からなくなる方用に大きく名前、場所の印を書いて目印にするようにしている。		